

平成 23 年度県庁ギャラリー展示

# 広島県の歴史絵はがきと観光資料

— 内陸部の風光 —



広島県鳥瞰図

広島県立文書館では、県の行政文書・行政資料や古文書などを大量に収蔵していますが、その中に戦前の広島県内の様子を写した絵はがきも多数含まれています。当館が収蔵するこれらの「歴史絵はがき」は、総数約 2,500 点にのぼり、まだカメラが一般に普及していなかった時代の様子を捉えたものとして、現在では貴重な歴史資料となっています。また、戦後の観光パンフレットやチラシ類も多数収蔵しており、かつての観光事業を知る貴重な資料と言えます。

昨年度は、「戦前戦後の海・川・町」を副題として、瀬戸内海を取り巻く沿岸部の歴史絵はがきと観光資料を展示しましたが、今回は内陸部に焦点を当てます。一部の観光地を除き、内陸部を写した絵はがきは数も少なく、貴重な歴史資料と言えます。自然豊かな内陸・県北地域の風光を捉えた戦前期の絵はがきや、峡谷・温泉地の観光パンフレットを中心に文書館の収蔵資料を紹介します。これら歴史資料を通じて、広島県内陸部の魅力を再発見する機会になればと考えています。

歴史資料は 過去・現在・未来をつなぐ 私たちの財産です

広島県立文書館

## ○ 歴史絵はがきに見る内陸部の風光

明治33年(1900)の私製絵はがきの発行を皮切りに、明治末期から昭和初期にかけて、日本では絵はがきブームが到来しました。広島県内でも広島市街地や瀬戸内の景観を写した絵はがきが数多く発行され、観光土産として流通しました。

県の内陸部では、三次町を中心に絵はがきが発行されており、町の全景や旭町の桜、尾関山公園などを写した絵はがきが数多く見られます。また、大正12年(1923)に国の名勝に指定された帝釈峡や、三段峡・山野峡などの峡谷のほか、上下・吉田・加計などの町場や各地の寺社を対象にした絵はがきも多く発行されています。

### 三 次



#### 三次巴橋(ともえばし)

三次町と十日市町を結ぶ三次のシンボルとも言える橋。江の川本流と西城川・馬洗川が巴形に合流するため、この辺りを「巴峡」と呼び、そこに架かる橋が巴橋である。

絵はがきはいずれも三次町側から見た様子で、大改修された大正2年(1913)以降のもの。対岸の左手にある大銀杏(いちょう)は、三次藩主浅野長治手植えと伝えられる。 <200407-1694・1708-2>



#### 三次鵜飼い

鵜飼いは、水にもぐって魚を巧みに捉える鵜の習性を利用した古代からの伝統漁法で、「日本書紀」や「古事記」にも記述が見られる。三次では、戦国時代に尼子の落ち武者が徒鵜(かちう)を行ったことに始まると伝えられる。

絵はがきは大正期後半～昭和戦前期の様子。三次浅野藩の時代には鵜匠(うじょう)制度により鵜飼いが保護されていた。現在は夏季3ヶ月の観光鵜飼いとして存続している。

他地方の鵜飼いでは、夜間の水上照明に篝火(かがりび)を用いるが、三次では絵はがきにもあるようにカーバイトを用いており、漁の細部までよく見えるのが特徴的である。



#### 三次旭町の桜

大正期の三次旭町通りの桜。この辺りは当時県北一の歓楽街と呼ばれた。江戸時代の三次町は大部分が武家地であったが、西城川沿いのこの一帯だけ町屋敷地となっていた。

上の絵はがきは料亭満川楼の前で撮ったもの。この満川楼のほか、料亭や旅館、カフェ・ビアホールなどが建ち並び、花見の時期には昼夜を問わず賑わった。河川の堤防改修工事により、この歓楽街は姿を消した。 <9110-645-9-7>



< > 内の数字は文書館収蔵資料の文書番号です。





### 三次の雲海

内陸部の盆地に位置する三次は、強い夜間冷却と盆地への寒気の流入、河川からの豊富な水蒸気の供給などにより霧が発生し、霧の名所として広く知られる。深く濃い霧は、特に晩秋から初春にかけて見られる。

<9110-4030-13・624-92>



### 尾関山より三巴を望む

<9110-624-133>



### 祝橋より尾関山公園を望む

<9110-623-103>

### 尾関山公園

江の川のほとりに突き出す30m余りの小山。尾関山の名は、福島正則の家臣尾関正勝がこの山に拠って三次地方を支配したことに由来する。

三次藩時代（1632～1720）には藩主の下屋敷があり、初代藩主浅野長治は山頂に「天象を見るため」発蒙館という建物を建てていた。

尾関山は江戸時代から紅葉の季節に町人たちが遊山する行楽地であったが、大正初期に数千本の桜の植樹が行われて以来、県北屈指の桜の名所となった。山頂から三次市街を一望でき、桜の季節をはじめ市民の憩いの場として親しまれている。

### 帝釈峡（たいしゃくきょう）

庄原市東城町と神石高原町との間を流れる帝釈川に沿う峡谷。石灰岩台地に狭くて深い谷を形成し、白い岩壁と緑樹や溪流が調和している。また、世界三大天然橋の一つと言われる雄橋（おんばし）があるなど、渓谷美と学術的価値が認められて、大正12年（1923）3月に国の名勝に指定された。昭和10年（1935）には県立公園に、同38年（1963）には国定公園に指定された。また、雄橋は昭和62年（1987）に国の天然記念物に指定された。

日本には、各地に石灰岩が形成するカルスト地形が見られるが、石灰岩の峡谷としては帝釈峡が随一とされる。頼春水（らいしゅんすい）・杏坪（きょうへい）や阪谷朗廬（さかたにろうろ）・徳富蘆花（とくとみろか）など、古くから文人墨客に親しまれている。



### 花面の霧降滝（永渡村）

<9110-622-197>



### 神龍湖紅葉橋付近

<9110-624-215>



### 神龍湖畔狗賣嶽

<9110-624-211>



### 天然橋雄橋

<9110-635-22-3>



滝ノ口と姉妹滝

<9110-627-177>



三段滝

<200407-1687-12>



猿飛

<9110-627-172>

### 三段峡

太田川の源流の一つ、柴木（しばき）川にある峡谷で、長さ約11kmにわたる。1000mを超す山々に柴木川が侵食を進めて形成したため、西日本一と言われるほどの大規模な峡谷となっている。昭和28年（1953）11月に国の特別名勝に指定された。

三段峡は、入口と11km上流部とで高低差が約400mあり、そのため至る所に滝や急流が見られる。

柴木川本流の主な滝は、入口から約7km上流の三段滝と樽床ダム下の三ツ滝である。三段滝は高さ約20m、淵の深さ約10mで、三段峡の代表的存在であり、三ツ滝は5段で高さは計30mある。また、支流には、かつて滝の落ち口であった猿飛（さるとび）や、高さ約10mの二段滝などがあり、更に上流部には大小13の滝が連続して形成されている。



三ツ滝

<9110-630-29>

### 山野峡

福山市山野町と神石高原町にまたがる峡谷。日本有数の準平原である吉備高原に形成された侵食谷であり、龍頭峡（りゅうずきょう）と猿鳴峡（えんめいきょう）の2つの峡谷からなる。昭和42年（1968）11月に県立自然公園に指定された。

県の名勝に指定されている龍頭峡は、滝や急流・早瀬の連続で、奥には高さ約60mの龍頭の滝や四段の滝があり、豪壮な景観を見せる。また、聖嶽（ひじりだけ）は昔、聖の行者の行場であったと言われ、150mの大絶壁は画家の画題にもなっている。猿鳴峡は、高梁川の支流小田川の流域約5kmに及ぶ渓谷で、奇岩・瀬淵などに富んでいる。

<9607-5666-10-1~5>



猿鳴峡くぐり岩



龍頭滝



四段滝



## 可部



可部付近鮎漁

<200407-1553>



太田川可部河畔

<200407-1548>



可部根ノ谷(ねのたに)川

根谷川の土手より高松山(339m)を望んだところ。現在は河川の護岸工事により、土手の風景が変わっている。

<200407-1547>



可部町付近(阿武山(あぶさん))

安佐北区可部町の南方、太田川の川向かいにそびえる標高586.4mの山。「阿生山」とも言う。山麓は大田川が180度方向を変えるところで、山の周囲を太田川に侵食されて険しい独立峰を形成しているが、広島市近郊で最も快適な縦走コースの一つと言われている。山麓には太田川と根谷川に挟まれた可部の町が広がる。

<200407-1550>



## 新市・府中

芦品郡網引村至孝堂(しこうどう)

天保8年(1837)、芦品郡網引(あびき)村の庄屋林吉助が、神谷川(かやがわ)左岸に建てた庶民教育のための堂舎。福山藩儒の衣川閑斎を招いて庶民に孝道を講じさせるなどした。

現在は、平成3年に網引地区の老人連合会によって建立された網引公碑と至孝堂跡の碑がある。

<9110-4037-40>

## 備後電気鉄道・両備鉄道

福山～府中間の鉄道計画は明治28年(1895)、「備後鉄道株式会社」の設立により進められるが、景気の悪化や用地買収の遅れなどにより計画が頓挫することになった。しかし、その後明治44年(1911)に、「両備軽便鉄道株式会社」として計画は再出発することになり、大正3年(1914)7月21日に開業(両備福山～府中間22.0km)することになった。



開通式当日の新市駅構内

<9110-4127-3>



開通式当日の府中駅の夜景

<9110-4127-1>



開通式当日の府中駅構内

<9110-4127-6>

## 町並み

### 上下町の町並み・翁山（おきなやま）

上下は陰陽を結ぶ街道の宿場町として発展した。元禄 13 年（1700）に天領（幕府領）となり、石見国大森代官所上下代官出張所の支配下に置かれた。商業・金融業で栄え、明治 32 年（1899）に郡役所が置かれてからは、各官公庁・会社などの出先機関も置かれた。絵はがきは、明治末期頃のもの。

<200407-1683/9110-624-67>



左：上下川から町の象徴である翁山を見たところ。中央、見張り台がある建物は警察署。明治初期の建物で、見張り台は当時のまま現存する。中央右、川面に木がせり出した大きな邸宅は田辺家。幕府の公金を扱う「掛屋（かけや）」を勤めた商家で、明治期には造り酒屋も営んだ。この建物も現存する。



右：翁山から上下の町並みを見たところ。上下川と石州街道に沿って町並みが広がる。中央に警察署の建物、左奥に上下キリスト教会の塔が見える。この建物は明治期には旧財閥角倉（すみくら）家の土蔵として建てられたが、戦後教会に使用された。現在は上下のシンボルの建築物で、県文化百選に選ばれている。

### 西城町全景

江の川上流部、西城川沿いに発達した町。天文 2 年（1533）東城にいた宮氏が大富山（おおとみやま）に築城したことから城下町として発展。備中・伯耆路、出雲路の分岐点であるため宿駅が置かれ、また西城川上流からの物資の集散地として商業機能も発達した。

絵はがきは明治末期頃のもの。中央の木々に囲まれた所が爾比都売（にびつめ）神社。中央右寄り、屋根が白く見える建物が西城劇場の前身の公会堂。畳敷で歌舞伎・映画などが催された。左端の屋根が白く見える建物が西城町役場。爾比都売神社の右、やや高い建物が西城小学校。中央部分には明治 36 年（1903）に敷設された電信柱が写る。 <200011>



### 吉田町全景

吉田町は、延元元年（1336）毛利時親（ときちか）が郡山城を築いて以降、輝元が広島城を築いて移る天正 19 年（1591）までの約 250 年間、中国地方の政治・経済の中心地であった。江戸時代は、石見・出雲路沿いの宿場町となり、街道沿いに町場が形成された。

絵はがきは昭和 13 年（1938）頃のもので、南西から北東方面へ町を望んだところ。江の川の支流多治比（たじひ）川に沿って、町並みが東西に（絵はがきの中央を左右に）展開している。

絵はがきの右側は蓮華寺と県立吉田農学校が写る。また、郡山城跡の麓にあたる左端には吉田高等女学校が写る。

<200407-1777>



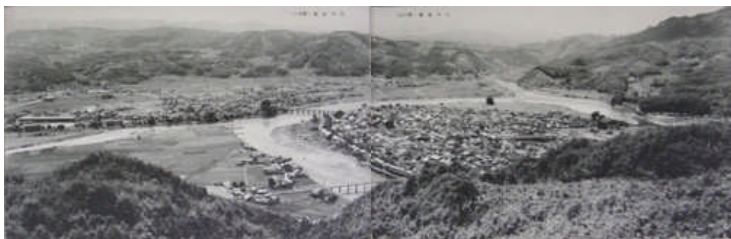




### 備後府中町全景

府中は古代、備後国府が置かれた所で、江戸時代にも石州街道沿いの市場町として、多くの商工業者で繁栄した。

絵はがきは、両備鉄道が開通する以前の明治末期のもの。中央の大きな屋根は、光円寺（右）と明浄寺（左）。中央を縦に通るのが上本町・下本町の町並み。その左側を並行して石州街道が通り、街道に沿って町場が発展した様子うかがえる。現在は上本町から石州街道沿いの出口町にかけて古い町並みが残る。 <9110-4030-3>



### 三次町全景

寺戸山方面から南へ三次町を望んだところ。大正12年頃のもの。手前の川は西城川で、架かる木橋は才が瀬橋。川沿いに旭町の町並みと満開の桜並木が見える。その向こう側に見える橋が巴橋。

<200407-1708-1>

手前に旭橋が見える昭和戦前期のもの。上は才が瀬橋がまだ辛うじて架かっているが、下ではなくなっており、景観の変遷うかがえる。

<200407-1698・1699/9110-624-22・627-182>



尾関山方面から南へ三次町を望んだところ。正面の高い塀で囲まれた所は三次刑務所。この土塀は高さ6mあり、約120年間使われ続けたが、昨年秋の施設建て替えに伴い取り壊された。

<9110-645-9>



### 加計町全景

<200011>

明治末～大正期頃の様子を写したものの。実際に使用された絵はがきで、写真の風景を説明する書込みがある。左側の加計小学校は明治44年(1911)1月に新築されたもので、それまでは、旧藩時代の官鉄中継所の倉庫を校舎として使用していた。また、中央の山県郡役所は、明治43年(1910)に加計町に移転決定したもの。

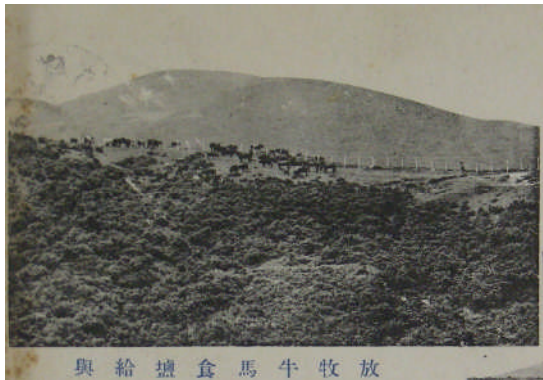


### 神石郡油木全景

<200011>

明治末～大正期頃のものと思われる。差出人の書込みには、「油木ハ海拔千六百五十尺(約500m)で県下第一の高処ニアル市街」と紹介している。福山から東城へ行く車道は明治19年(1886)に開通した。明治維新まではささやかな集落であったが、大正11年(1922)に常設の家畜市場が開設され、郡立農学校が設立(翌年に県立油木農学校と改称)された。大正末期には商店が約80軒、旅館が12軒あり、神石郡第一の都邑となった。

## 道後山



與給壇食馬牛牧放

絵はがきは昭和戦前期頃のもの。なだらかな緩斜面が特徴的な道後山には、明治中期から昭和30年代中頃まで、広島・鳥取両県の農家によって牛の放牧が行われており、「両国牧場」と称されていた。現在は、放牧牛の越県を防ぐために築かれていた石塁が残っている。

### 比婆郡道後牧場(両国牧場) <200011>

道後山(1269m)は庄原市東城町と鳥取県との境にあり、1000m以上の山が連なる道後山山塊の主峰。山頂部は岩樋山(いわひやま)(1271m)と道後山の2つの円頂丘がある。昭和38年(1963)に比婆道後帝釈国定公園に指定された。



涼納の頂山中日馬牛牧放

### 国鉄道後山山の家

<200011>

山の家は、青少年や家族旅行のために国鉄が建てた宿泊施設。道後山山の家は、昭和13年(1938)10月、当時の広島鉄道局が建てた。赤い屋根のしゃれた山小屋は定員157人で、和室とベッドがあった。絵はがきには、昭和18年9月16日付けのスタンプが押されている。

戦後、進駐軍に接収されたが、昭和25年(1950)に岡山鉄道管理局に移管、同40年(1965)からは日本交通観光社に経営委託され、当時は年間約1万2000人の利用者があった。





## ○ 戦前戦後の観光資料～県立文書館の収蔵資料から～

### ●パンフレットに見る内陸部の観光

昭和30年代以降、大衆観光（マス・ツーリズム）の広がりとともに、広島県内でも様々な観光パンフレットや案内書が発行されるようになりました。文書館では、個人が収集した昭和20～40年代の観光パンフレット・チラシ類を、県外のものも含めて約1,500点収蔵しています。その中には、瀬戸内沿岸部はもとより、内陸部の名勝・温泉・行楽地の旅館等が発行したものが多く、戦後の観光事業の活発さがうかがえます。

一般的にパンフレットやチラシ類は、大量に配布される半面、きちんと残されることが少ないものです。それだけに、これらは当時の観光地のあり方を知る貴重な資料と言えます。



湯来温泉チラシ  
〈200013-3116〉



『みどり荘』 〈200013-128〉

### 湯来温泉（広島市佐伯区湯来町）

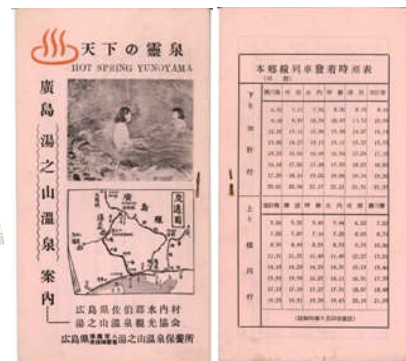
太田川の支流打尾谷川（うつおだにがわ）の溪流に沿って発達した温泉。大同年間（806～810）頃の発見と言われ、慶長年間（1600年前後）には芸陽地方唯一の温泉地として人気を博した。昭和30年（1955）に当時の厚生省から国民保養温泉に指定され、昭和50年代には旅館・民宿9軒、年間5万人以上の宿泊客を有していた。



『藤の家』  
〈200013-12〉

『双葉荘』  
〈200013-21〉

『河鹿荘』  
〈200013-13〉



『広島湯之山温泉案内』 〈200013-118〉

### 湯之山温泉（広島市佐伯区湯来町）

湯之山温泉の湧出は、富士山が大爆発した宝永4年（1707）とされており、広島藩主浅野家の湯治場として保護された。現在も当時の湯殿や湯之山明神の諸施設が残っている。旧湯治場は、昭和33年（1958）に県史跡の指定を受け、また同49年（1974）2月には国の重要有形民俗文化財の指定を受けた。江戸期は活況で宿屋が37軒あったが、昭和50年代でも、宿泊施設6軒のほか村営温泉館があり、年間入湯客は約5万人であった。

### 仏通寺温泉（三原市）

仏通寺（ぶつとうじ）は、応永4年（1397）小早川春平が一族の精神的支柱とするべく建立した臨済宗仏通寺派の大本山。かつては京都五山の上位・南禅寺と同格に遇され、山内に88ヶ寺、全国に3000余ヶ寺に及ぶ末寺を擁していた。仏通寺温泉は、その仏通寺の近隣、仏通寺川沿いに湧出する温泉。



『深山荘・別館山水荘』

〈200011〉



『白馬荘』

〈200013-205〉

**三段峡（山県郡安芸太田町）**



『三段峡案内（チラシ）』  
 <200013-113>



『指定名勝広島県公園三段峡』  
 （三段峡観光協会）<200013-3117>



『芸北公園三段峡』  
 （三段峡ホテル）<200013-2933>

**冠高原（廿日市市）**

廿日市市吉和の冠山（かんむりやま）（1339m）南麓に位置する海拔 800m の高原。戦後開かれ、昭和 28 年（1953）に高原ヒュッテが、翌年には乳業会社の牧場が進出した。また、冠高原にはレンゲツツジの群落があり、同 29 年には県の天然記念物に指定され、その後「西の軽井沢」をめざして観光開発が進められた。



冠高原（広島電鉄）<200013-132>

**帝釈峡（庄原市）**



帝釈峡遊覧要図  
 <200011>



帝釈峡案内チラシ（山田旅館）  
 <200013-3119>



羅漢温泉チラシ<200013-138>

**羅漢温泉（廿日市市）**

羅漢山（らかんざん）（1109m）の東麓を流れる小瀬川（おぜがわ）沿いの温泉。佐伯町は古くからの湯治場として知られており、近隣の湯来温泉などと同様、ラドン含有量の高い温泉が湧出する。



とらや旅館 <200011>  
 角屋旅館 <200013-145>



四季の道後山  
 （岡山鉄道管理局）  
 <200013-142>

国定公園道後山  
 （道後山観光協会）  
 <200011>

**比婆山（庄原市）**

比婆山は、古事記にも登場する神話の山として知られる。頂上から山腹一帯にかけて広大なブナの純林があり、昭和 35 年（1960）に国の天然記念物に指定された。御陵の一帯には、イチイの巨木が群生し、また御陵の遥拝所である東南麓の熊野神社には、国の天然記念物に指定されている日本有数の大トチの木がある。夏は高山植物が咲き乱れ、冬は見事な樹氷が見られる。昭和 38 年（1963）7 月、鳥取・島根を含めた 3 県にまたがるこの一帯は、比婆山道後帝釈国定公園に指定された。



国定公園比婆山（比婆山観光協会）<200011>



## ●内陸部を描いた鳥瞰図

大正～昭和初期の観光ブームとともに、全国各地の観光案内の折込みなどに鳥瞰図が使われるようになりました。京都出身の著名な鳥瞰図絵師・吉田初三郎（1884～1955）は、広島県内でも瀬戸内沿岸部を対象に数多くの鳥瞰図を描いています。しかし、内陸部については、三次町の鳥瞰図を描いた程度であり、全体的に見て広島県内陸部の鳥瞰図は少ないと言えます。

しかし文書館の収蔵資料の中には、数は少ないものの、パンフレットなどに描かれた内陸部の鳥瞰図を見ることができます。山や峡谷の自然美を観光との結びつきを意識して描いたこれらの鳥瞰図は、当時の広島県における観光の姿を表現しているとも言えます。

### 広島県鳥瞰図 ※表紙に掲載

<200307-493>

大正15年（1926）5月、皇太子（のちの昭和天皇）の岡山・広島・山口3県行啓の際、広島県からの献上品として作成された鳥瞰図の複製。内陸部の山岳風景をよく表現している。



### 天下の名峡帝釈峡

昭和29年（1954）に帝釈村観光協会（帝釈村役場内）が発行したパンフレット『天下の名峡 帝釈峡』に掲載された鳥瞰図。

岡山県側から見た帝釈峡を描き、国鉄津山線を図の下半分の枠線にしている。広島県側からの観光を意識しており、広島・福山・芸備線各駅からのアクセスと、帝釈峡の細部にわたる景観を分かりやすく表現している。<200013-3118>



### 比婆観光鳥瞰図 <200013-219>

比婆観光協会から発行された観光案内に描かれた鳥瞰図。比婆郡一带と庄原市の観光地を紹介している。昭和25年（1950）前後に発行されたもの。



### 備後三次町鳥瞰図

<8910-198>

昭和6年（1931）、三次商工会が発行したもので、「大正広重」として知られる鳥瞰図絵師・吉田初三郎の作品。木曾川の溪流＝日本ライン沿いの犬山市蘇江にあった自身の画室で作成した。

この図に添えた一筆として、初三郎は、「三次の鵜飼は、其の歴史に於て、景観に於て、岐阜の長良と東西に覇を争ふもので、正に両横綱の観があり、私は此の機会に、世に隠れたる此の立派な名物を、ひろく天下に紹介したいと思つてゐる」と記している。図の中央に鵜飼の様子を賑々しく描き、また尾関山と旭町の桜が強調されている。

三次の町を中心にして、左に広島、右に福山という、初三郎特有の大胆なデフォルメにより、三次への観光を誘う魅力的な鳥瞰図となっている。

●鉄道資料 一芸備線・可部線―（長船友則氏収集資料から）

文書館では、鉄道史学会会員・長船友則氏から寄贈・寄託された鉄道資料 3,000 点余を収蔵しています。主に中国地方の鉄道を対象に収集された切符や駅弁票・その他刊行物・時刻表など、長く残りにくい紙資料が中心であり、第一級の鉄道資料と言えます。

長船氏が収集した資料は、広島県以外の中国地方各県の鉄道資料も多く含んでいます。ここでは、昭和 30～40 年代頃の芸備線・可部線など広島県内陸部の鉄道について、自身が撮影された写真を中心に、資料の一部を展示します。

駅弁票



備後十日市駅（環翠楼）  
国民精神総動員運動が行われた昭和 10 年代のもの。<200407-600>



三次駅（環翠楼支店）  
弁当 100 円時代の昭和 27～37 年頃のもの。  
<200407-604>



三次駅（環翠楼支店）  
弁当 150 円時代の昭和 38～42 年頃のもの。  
<200407-604>

きっぷ



可部線 布一加計間開通記念乗車券  
(昭和 29) <200407-630>



三段峡乗車券  
(昭和 49. 7. 10)  
<200407-622>



芸備線準急行券 (昭和 36・37)  
<200407-616>

写真

一芸備線―



道後山～備後落合間  
昭和 37. 3. 11



備後西城～比婆山間  
昭和 38. 1. 2



道後山～備後落合間  
昭和 42. 1. 3

一可部線（加計～三段峡間開通式）―



加計駅にて開通祝賀列車の  
テープカット昭和 44. 7. 27



加計駅を出発する開通  
祝賀列車 昭和 44. 7. 27



加計駅に待機する新線 1 番列車  
昭和 44. 7. 27

<200407-606～610>

お願い 広島県立文書館では、広島県に関する歴史的価値のある行政文書や行政資料、古文書、郷土資料を収集・保存しています。これらに関する情報をお持ちの方、寄贈・寄託をお考えの方は御連絡ください。

平成 23 年度県庁ギャラリー展 (9 月 5 日〈月〉～22 日〈木〉)

広島県の歴史絵はがきと観光資料 ― 内陸部の風光 ―

平成 23 年 (2011) 9 月 5 日 / 広島県立文書館 (担当: 西向宏介)

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47

TEL (082)245-8444 FAX (082)245-4541 E-mail: monjokan@pref.hiroshima.lg.jp